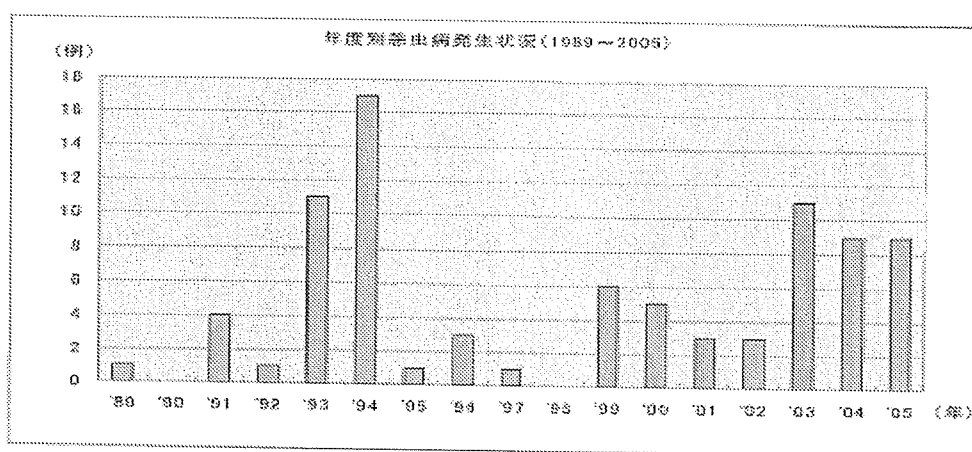
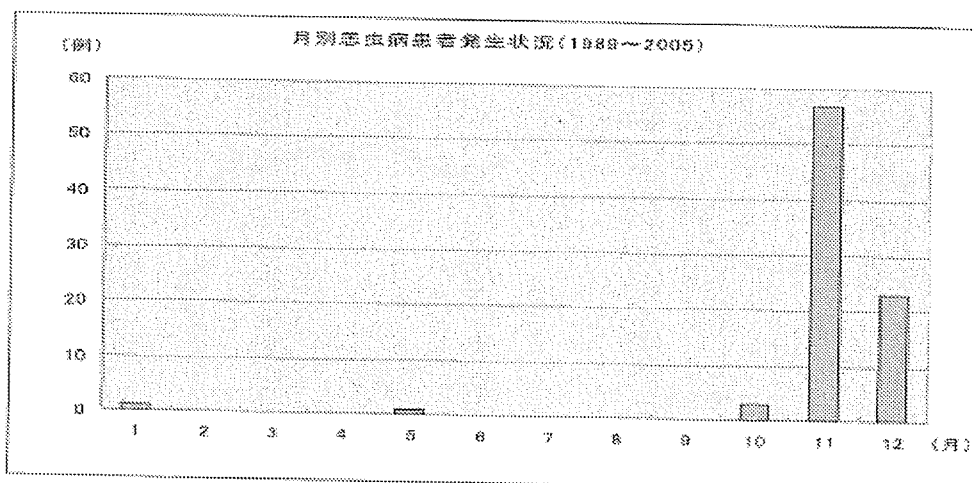


Table 7 Cytokine data of 4 patients suspected rickettsial infectious disease in Mie Prefecture.

case	phase	TNF- α	IL-10	IL-12
1	acute	42.93	65.34	91.37
	convalescent	1.85	0.43	2.31
2	acute	3.49	30.51	41.89
	convalescent	0.80	0	31.63
3	acute	0.89	0	43.68
	convalescent	0.66	0	49.17
4	acute	2.97	3.64	59.67
	convalescent	0.60	0.17	40.83

These patients was not diagnosed tsutsugamushi disease or JSF by immunological examinations. Cytokine concentrations (mean \pm SD) were measured by ELISA. Data show concentrations (pg/ml) of each cytokines.

Fig. 3 和歌山県田辺市におけるツツガムシ病患者の発生状況 (1989～2005年)



資 料

(資料)

厚生労働科学研究費補助金新興・再興感染症研究事業

「リケッチア感染症の国内実態調査及び早期診断体制の確立による早期警報システムの構築」

業務委託

「リケッチア感染症に係わる鳥類寄生性ダニ等媒介節足動物の国内実態調査と疫学研究のための試料の採集」

財団法人山階鳥類研究所 尾崎清明、鶴見みや古

本業務は、リケッチア感染症に係わる鳥類寄生性ダニ等媒介節足動物の国内実態調査と疫学研究のための試料を得る目的で実施した。日本全国を対象とし、鳥類寄生の感染症を媒介する可能性のある節足動物（ダニ類、ノミ、ハエ類、ハジラミ、トコジラミ等：以下外部寄生虫）の収集を目的として、(1)鳥類標識調査、(2)鳥類の巣材等、(3)動物園等で傷病鳥として保護された野生鳥類から試料の収集を行なった。

試料収集状況

(平成18年度, 2007年2月10日現在)

日本全国を対象に32都道府県128ヵ所で試料収集を行なった。その結果、日本産鳥類13目35科110種から外部寄生虫サンプル約1,100点を収集した(図1、表1)。このうち、マダニ類生体およびトコジラミ生体431サンプル、マダニ類液浸標本52サンプルは病原体分析のため関係する研究機関に送付した。その他の試料(マダニ類、ハエ類、ノミ、ハジラミ、その他分類群不明昆虫等)は液浸標本として保存している。

収集方法別の収集状況は以下の通りである。

(1) 鳥類標識調査時に捕獲された鳥類からの外部寄生虫の収集

国内80ヵ所で実施した鳥類標識調査で捕獲された鳥類80種から、マダニ類、ウモウダニ、シラミバエ、ハジラミサンプル約1,000点を収集した。

(2) 鳥類の巣材等からの外部寄生虫の収集

アホウドリ類、ツバメ類など11種の鳥類の巣から巣材の一部を採集し、目視あるいはツルグレン装置による分離法により外部寄生虫の収集を試みた。その結果、一部の巣材からマダニ類、ノミ、トコジラミ等のサンプル約80点を収集した。一部の巣材については実験室で保存している。

(3) 動物園等で傷病鳥として保護された野生鳥類からの収集

傷病鳥、あるいは死体拾得された野生鳥類21種からマダニ類、シラミバエ、ハジラミ等のサンプル約30点を収集した。

今後の予定

今後も上記の方法により、外部寄生虫の採集を行なう予定である。

特に冬季に繁殖する海鳥類を対象に、以下の調査を予定している。

場所	時期
・伊豆諸島鳥島	2月
・小笠原諸島	2月-3月

以上

図1. 都道府県別鳥類外部寄生虫採集地点数およびサンプル(2007年2月10日現在)

()内はサンプル数

